

も増えることとなるので、今後でもできる限り有利な市債を活用しながら財政運営を行う必要がある。

◆路線バス中心部利用者運賃差額助成等補助金について

説明 1月11日から運行再開する市街地循環バス「ぐるりんおおず」の利用者のうち、バスが乗り入れる市内の4病院を受診される利用者の運賃を、各病院が受診利用者1名につき50円を負担し、バス運行会社に支払うもの。

問 割引システムの流れについて

答 今回の取り組みは、「ぐるりんおおず」を乗り入れる4つの病院のご理解をいただき、実証実験として行うこととなった。

流れとしては、まずバスに乗車し、病院で降りるときに乗車証明書が発行されるので、その証明書を病院での受診などが終わった後に受付で証明書に確認の印を受けていただき、乗車証明書を帰りのバスで運転手に提示すると運賃が50円割引の100円となる。結果、病院に行く

ときは運賃が150円必要だが、帰りは100円となり50円の割引となる。

運行再開した「ぐるりんおおず」



◆ブロック塀改修事業について

説明 9月定例会において小・中学校、幼稚園の13施設18枚のブロック塀の改修費用2,109万4,000円が計上されたが、今回、国の交付金制度が創設されたことにより、

厚生文教委員会

委員長 宇都宮 宗康

小・中学校4施設4枚の改修費用3,612万6,000円が計上されているもの。

問 今回の改修でコンクリートブロック塀の修繕は完了するのか。

答 9月定例会では、現地調査の結果、建築基準に適合しないものの、危険なものとは位置付けたブロック塀の改修費用を計上したが、今定例会では要注意と位置付けたものについて計上した。

これでブロック塀の予算計上はおおむね終了するが、今回の国の補助対象とならないバックネットの基礎にコンクリートブロックを使用している中学校が2校残っており、これについては平成31年度当初予算で対応したいと考えている。

問 通学路にあるブロック塀はどのように対応しているのか。

答 民家のブロック塀など対応が難しいところは通学路を変更するなどの対応をしているが、今後、通学路の合同点検の中で協議していきたい。

◆社会教育施設災害復旧費について

説明 平成30年7月豪雨により被害を受けた大成体育館など4施設の災害復旧に係る工事請負費1億601万8,000円が計上されているもの。

問 今回の予算は原状復旧で計上されているが、大成体育館と大成ふれあい広場は、地域の方々から、今回の災害により2メートル浸水したから、現在の体育館を取り壊し土地をかさ上げした後に、新たな体育館や広場を建設してほしいとの強い要望がある。地域の要望を踏まえた復興のための工事をすべきではないのか。

答 今回の予算は、国の災害復旧費補助金を活用し、地域の方が一日も早く施設を利用できるようにするために計上したものである。今後、大川地区、特に森山本村区周辺は地区計画を立てた上で全体的な復旧・復興の絵が描かれていくことになると思うが、計画ができて実現するまでには数年はかかると考えている。その間、大川地区の方々が体育館などの施設を利用できない状